

小論文コンクール入賞作品のご紹介

全入賞者の氏名等および上位入賞作品は、知るぽるとWEBサイト (<https://www.shiruporuto.jp/>) でご覧いただけます。両コンクールにおいて金融広報中央委員会会長賞を受賞した作品の概要や受賞者の声をご紹介します。



詳細はこちらから！

「おかねの作文」コンクールは今回で55回を数え、今年度のテーマは、おかねに関することであれば「自由」（自由テーマ）でした。今回は、全国の中学生から5,113点の応募が寄せられ、審査の結果20点が入賞作品に選ばれました。

第55回「おかねの作文」コンクール

鹿児島県 薩摩川内市立川内北中学校 3年 瀧野 まのん

金融広報中央委員会会長賞「円グラフに学ぶ」

【作品概要】

金融教育が浸透していないといわれるなか、筆者の家庭で年1回開かれている「決算報告会」によって、父親からお金の流れ、貯蓄・投資について学んでいく様子がいきいきと描かれています。10年前、未熟児で生まれた妹の高額な医療費負担をきっかけに父親がキャッシュフローの記録を付け始めます。収入が青色、支出が黄色、投資・貯蓄が緑色、税金が桃色に色分けされた円グラフは小学生の妹でもわかるように工夫されていて、今まで知らなかった家のお金事情が目に見えてわかるようになりました。とくに投資・貯蓄に関心を持ち、日本と欧米の違いなどを調べていきます。その結果、投資とは手持ちのお金を増やす前に社会を良くすることにつながると気づきます。ジュニアNISAで積立投資を始め、将来、自分で生計を立てるときには、父親の円グラフを引き継いで決算報告会を開きたいと結んでいます。

【講評】

「日本は家庭でお金の話をしない、したがらない、してはいけないと思込んでいるところがあるが、この作品はまさに家庭の中で日々金融教育を実践されている。大人も含めて多くの人にこの作品を読んでほしい」と評価されました。



受賞者の声

このコンクールを通して、妹が生まれたときに、家族が税によって支えられていたこと、投資を通じて、社会を支えている人々がいることについて、改めて深く考えることができました。私も将来、社会のためのお金の使い方ができる人になりたいと思います。

特選入賞者(敬称略)

金融担当大臣賞	「インフレに負けない私流おこづかいの守り方」	和田 桜子 (東京都 百合学園中学校 3年)
文部科学大臣賞	「あの時五千円を財布から出していたら」	藤本 瑛巨 (奈良県 三郷町立三郷中学校 1年)
日本銀行総裁賞	「向き合う」	井口 慶香 (新潟県 上越教育大学附属中学校 3年)
日本PTA全国協議会会長賞	「『貨幣』という文化」	吉村 和夏 (山梨県 北杜市立甲陵中学校 3年)
金融広報中央委員会会長賞	「円グラフに学ぶ」	瀧野 まのん (鹿児島県 薩摩川内市立川内北中学校 3年)

主催：金融広報中央委員会

後援：金融庁、文部科学省、日本銀行、公益社団法人日本PTA全国協議会、日本私立中学高等学校連合会

※おかねの作文（中学生）コンクールは、2023年も実施（6月ごろ募集開始）予定です。

中学生・高校生を対象とする作文・

金融広報中央委員会では、中学生や高校生に金融・経済への関心を高めていただくことを目的として、毎年、作文・小論文コンクールを実施しています。厳正な審査の結果、2022年度は次の方々が上位に入賞されました。



詳細はこちらから！

高校生小論文コンクールは今回で20回目となりました。今年度のテーマは、金融や経済に関すること。今回は、全国の高等学校から2,255点の応募が寄せられ、審査の結果20点が入賞作品に選ばれました。

第20回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール



東京都 東京都立武蔵丘高等学校 3年 カーン ビスマ

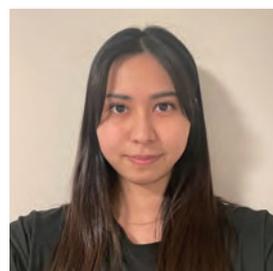
金融広報中央委員会会長賞「シングルマザーとフードパントリー」

【作品概要】

筆者は、飲食店でアルバイトをしている時、閉店時に大量の食品を廃棄していることに衝撃を受けます。まだ食べられるのに廃棄される食品が1年間に東京ドーム約5杯分の量に及び、増え続けていることに問題意識を持ち、食品ロスをなくすために活動しているフードパントリーのボランティア体験をします。利用者は、ひとり親世帯や失業者など生活困窮者が大半を占めており、その多くが女性で、小さな子どもの手を引いて参加する人も数多くいました。食品や日用品は幅広い提供先から寄付され、助け合いの精神が根付いていることを素晴らしいと感じながらも、フードパントリー1団体あたりの食品の取扱量が減少しているという事実をデータで示し、エンゲル係数が高いひとり親世帯、シングルマザーにとって、ライフラインの役割を担うフードパントリーを利用者の増加に合わせて増やしていくべきと指摘しています。

講評

「自らがフードパントリーでボランティアとして体験したうえで、数字を具体的に示し分析をしている点が素晴らしい」「現場で聞いた声に実感がこもっていて、はっとさせられた」と評価されました。



受賞者の声

フードバンクを活用すること、団体数を増やしていくことで受け取る利用者はもちろん、社会全体にもよい影響を及ぼすことを学びました。身近にあるのに知らなかったという声を減らすために、ほかにも私たちができることは何かを考えていきたいです。

特選入賞者(敬称略)

金融担当大臣賞	「紅茶から考える自分の将来」	佐々木 ことみ (東京都 大妻中野高等学校 1年)
文部科学大臣賞	「カレーと豆ごはん ～気持ちを循環させるお金と経済のあり方」	兼頭 玄 (愛媛県 愛媛県立松山東高等学校 1年)
日本銀行総裁賞	「日本の子供たちの相対的貧困」	横山 雅楽 (東京都 東京都立国際高等学校 2年)
全国公民科・社会科教育研究会会長賞	「生理的貧困と考え方」	野村 美妃 (東京都 東京都立国際高等学校 2年)
金融広報中央委員会会長賞	「シングルマザーとフードパントリー」	カーン ビスマ (東京都 東京都立武蔵丘高等学校 3年)

主催：金融広報中央委員会

後援：金融庁、文部科学省、日本銀行、全国公民科・社会科教育研究会、公益財団法人全国商業高等学校協会、全国家庭科教育協会、日本私立中学高等学校連合会

※高校生小論文コンクールは、2023年も実施（6月ごろ募集開始）予定です。